ゆうすい

嘉島西小学校　学校便り
令和５年１月１７日
文責：校長　江上　知男

マスク姿の集会（6年）

コロナの時代…「目」がポイント！

「新型コロナの感染が国内で確認されてから3年」というニュースを見ました。新たな感染者や亡くなる人は増加が続き、収束の見通しはなかなか立ちません。

コロナ禍で大きく変わったことの１つに、**「人前でマスクをすること」**があります。私は、「マスク顔」が同じように見えて、人を見分けたり、名前を覚えたりするのに苦労しています。**「マスク顔」から得られる情報は、「目」やその周辺に限られ、それに声などの情報を加えて、相手の感情や考えを想像します。**「目は口ほどにものを言う」と言いますが、**目の使い方はコミュニケーションをとるうえで、これまで以上に重要**になっています。

さて、毎朝校外で子どもたちとあいさつを交わしていますが、子どもたちの視線は様々です。**「私の方を向かず言葉だけ交わす子」が約2割、「何となく私の方を見てあいさつをする子」が約4割、「目を合わせてあいさつする子」が約2割、「目を合わせたうえで会釈までする子」が約2割**という感じです。目を合わせてくれる子どもとのあいさつは、一瞬気持ちが通じ合って、気持ちが良いものです。

人によって違いがある理由は、性格（恥ずかしい…）や感情（関わりたくない、面倒…）が大きいと考えられます。また、相手への信頼度も関係します。ただ、「マスク顔で目を合わせない」となると、相手にマイナスの感情（無視した、自信なさそう…）を抱かせることも事実です。**「相手の目を見て話すこと」は、学校でも家庭でも話題にして、一緒に考える必要があると思いますがいかがですか？**

「記憶力が高まる」話です！？

芦田愛菜さんという俳優をご存知ですか。現在、高校3年生…年末年始のCM出演数がトップだったそうです。「天才子役」と言われた彼女は、小学生の頃から大人顔負けの感情表現ができる演技で有名でした。ある共演者が、「台本の漢字をスラスラ読めるのでビックリした」と話しているのを覚えています。

昼休みの貸出（図書委員）

彼女は、幼少の頃から読書に興味を持ち、小学生の頃に読書量が年間60冊を超え、中学生になってからは年間300冊以上を継続的に読み続けているのだそうです。学業も仕事も忙しい彼女は、読書ができるようなプライベートの時間は少ないでしょうに…。

ある人は「読書の効果」について、**「他人の気持ちを想像する力を育て、人間的・精神的な成長に繋がる」**と述べています。彼女の演技力や理解力の高さは、あるいは読書の効果なのかも知れません。

脳科学でも、「読書の効果」を説いています。人間の脳には、「情緒や創造力をつかさどる前頭葉」という場所があり、小学生期には鍛えれば鍛えるほど発達するのだそうです。また、小学生期は「無努力記憶期」ともいわれており、「記憶しなさい！」と前頭葉から出された命令を忠実に実行して、面白いほど知識が蓄積されるのだそうです。小学生の時期に覚えた「かけ算九九」や「基本的な漢字」などを一生忘れないのはこのためです。そして、**小学生時期の読書は前頭葉を一層刺激して、情操が豊かになるばかりか「記憶容量が増大する特効薬」**なのだそうです。つまり、**読書と記憶力は直結している**のです。

実は…、私は今年になってある資格取得のために「大学の授業」を受けているのですが、本を読んでも、講義を聴いてもなかなか頭に入らず、「記憶容量の不足」を痛感しました。年齢から来るものなのか、子どもの頃からの読書が足りなかったのか、今となっては知る由もありません…残念！（涙）。

１月１７日に、PTA美化委員が学校の清掃作業をしてくださいました。学校は、現在「工事現場」で、汚れている場所が多々あります。寒い早朝から学校をきれいにしていただき、心から感謝します。